

長野県の保健師活動、ここに始まる

現在、健康長寿県となった長野県の背景には、昔から昼夜惜しまず地域の人々のために必死で保健活動を行い、地域の人々の健康を支えてきた保健師さんの姿があります。ここでは、戦後の復興期から高度成長期にかけて、時代ごとの健康課題の解決にご活躍されたお二人の保健師の軌跡を紹介します。



大峽 美代志
(おおば みよし)

1921(大正10)~2008(平成20)年

1921年1月20日仁礼村(現須坂市仁礼)生まれ。長野市助産看護講習所修了後上京し、看護師として病院勤務。保健師資格取得後、高甫村(現須坂市)初代保健師として保健衛生に尽力。開発途上国の母子保健・家族計画の推進のための国際協力活動にも貢献する。長野県在宅看護職の会(現長野県在宅看護職信濃の会)会長、長野県看護協会常任理事などを歴任。厚生大臣表彰、長野県知事表彰、日本看護協会会長表彰、医療功労賞など受賞。2008年9月、86歳で死去。

保健補導員を指導し「衛生五悪」を追放、 受胎調節にも尽力

昭和19年、大峽美代志さんは、極貧の医療も届かない高甫村(現須坂市)初の保健婦として赴任しました。

鉱毒水が大量に川に流れ込むため、村には清潔な水がなく、手洗いはもとより洗濯もままならず衛生状態は最悪でした。

そんな状況から、住民の命を守るため、持ち前の頑張りと行動力で村の女性たちを組織し、県内初の「保健補導員制度」を創設し、以下の村の「衛生五悪」の追放に取り組みました。

当時は亡くなる母親や乳児の死亡率が非常に高

病気や寄生虫感染の元凶だった「手のひら皿の廃止」

結核と神経痛対策としての「万年床」の追放

「暗さ」の追放、押入れ作りなど部屋の改造

トラホーム予防のための囲炉裏からカマドへ改造

「もらい風呂」の廃止

※参考文献:「須坂の母ちゃん頑張る」(JOICドキュメント刊行委員会)

く、その悲惨な現実に歯ざしりする思いで、受胎調節にも力を注ぎました。

昭和27年、受胎調節実地指導員の資格を取得。

村長他村の実力者に掛け合い予算を固め、地区の取りまとめに奔走。昭和29年地区全戸が参加する夫婦同席の講習会「高甫村優性保護研究会」(別名:おしどり会)をスタートさせ、受胎と生理などの講義、コンドームの使用、オギノ式の計算方法などを根気良く指導。

それが奏功し、翌年には中絶数半減、乳幼児死亡率激減という成果が現れ、この功績により昭和32年、おしどり会は厚生大臣賞を受賞しました。

高甫村は、昭和30年須坂市に吸収合併されるが、「須坂市保健補導員会」として継続され、代々地域の女性に担われ、健康に関する学習と実践を基本とする住民の健康増進のための地区組織として活動が続いています。

地域の人々と向き合いながら、 上田地域の保健活動の礎を築く

関清子さんの初任地は、昭和24年にGHQの指示で、県内唯一のモデル保健所に指定された上田保健所でした。

結核が蔓延していた戦後当時は、自宅療養の人が多かったため、積極的に家庭訪問を行い、全身清拭をはじめ、痰の処理方法、床ずれの治療方法など家族への感染防止に取り組みました。

物が無い時代で、喀痰の処理に使う箱や袋作りに使う新聞紙集めに奔走し、少しでも快適に療養ができる環境づくりに尽力しました。

戦後復興期には、結核や急性伝染病などの感染症や性病、寄生虫、虫歯の予防や治療、母子保健(受胎調節)の改善に取り組みました。

常に「家庭訪問」を業務の基本とし保健所業務の合間を縫って各家庭を訪れました。

また、幻灯機(映写機)持参で各公会堂で行う衛生教育に力を入れました。

その姿勢は、高度成長期になっても変わらず、各地域で「何でも相談室」を定期的で開催するなど、きめ細かいケアを通して、住民一人ひとりと向き合い

続けてきました。

こうした「住民の生活」に基づく保健活動は、各家庭にとどまらず、地域の保健補導員を巻き込んだ活動を展開しました。

現在と違い情報が限られていた中での保健補導員の役割は重要で、保健師と住民の橋渡し役として活躍しました。

中でも、「一部屋温室作り運動」は有名で保健師との良好な連携プレイで、長野県の県民病といわれた脳卒中予防に寄与しました。

また、上小精神障害者家族会(やまびこの家)、上田断酒会の設立に尽力するなど、様々な形で地域の人々の健康に貢献し、上田地域の保健活動を牽引してきました。

84歳になった現在も、保健所や関係機関の助言も受けながら、行政相談活動、禁煙の啓発活動、難病友の会の活動、老人クラブ活動、在宅看護職の会の活動等々で、忙しい毎日を送っており、家に居る事が少ないので「出たっきり老人」と呼ばれるほど精力的に活躍されています。



関清子
(せき きよこ)

1931(昭和6)年~

1931年12月24日坂城町生まれ。県職員として上田保健所や小諸保健所に勤務後上田市役所、県国民健康保険団体連合会の保健師を務める。平成3年4月から上田市区域担当の行政相談委員で現職。上田市公民館、上田市社会福祉協議会主宰の高齢者大学の講師、長野県脊柱靭帯骨化症友の会、低肺の会などの役員なども務める。長野県歯科保健文化賞、厚生労働大臣表彰(国民健康保険業績)、日本看護協会会長表彰、総務大臣表彰(行政相談委員)、上田市功労賞など受賞。平成24年4月藍綬褒章授章。